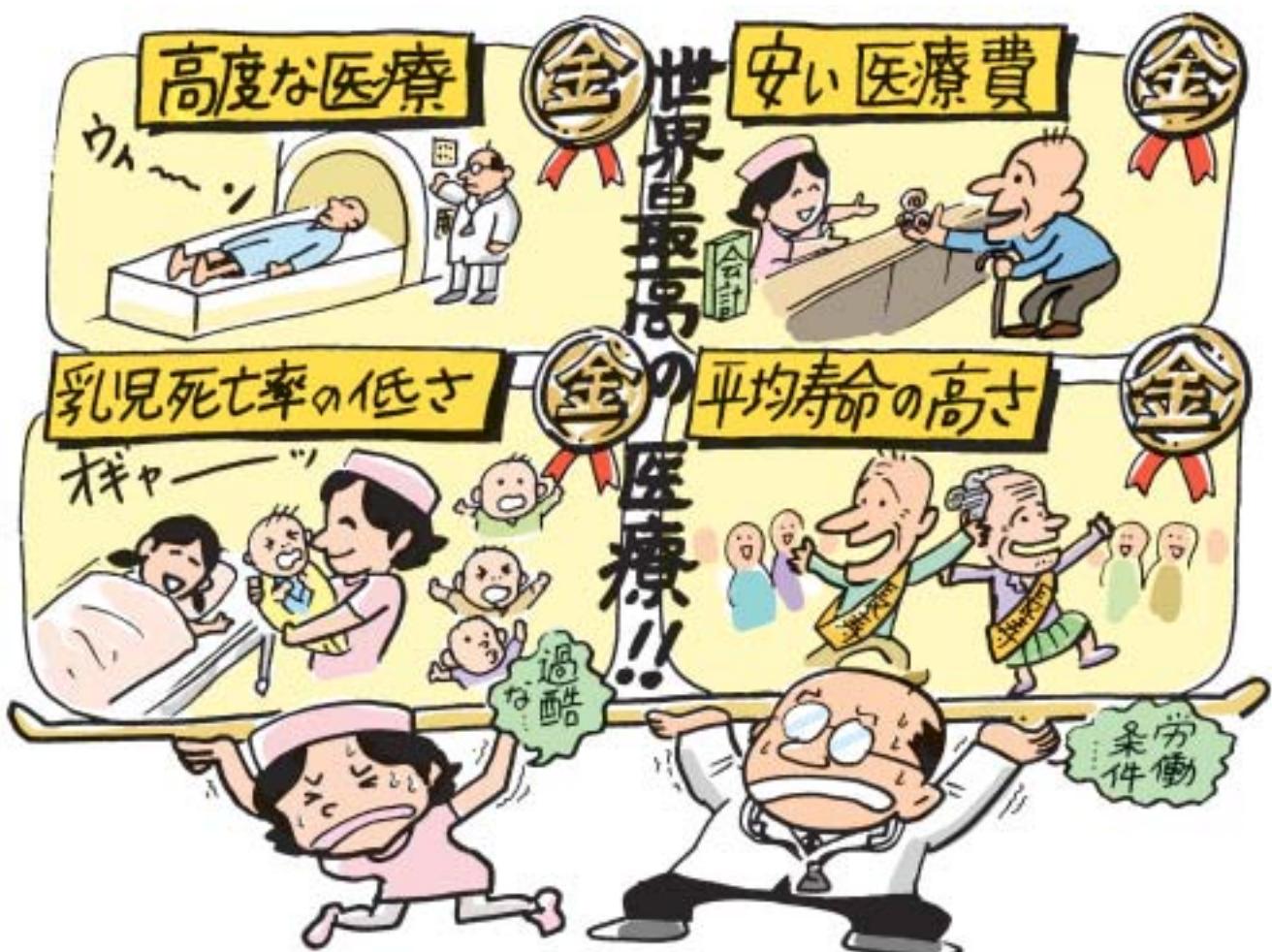


# 絵で見る日本の医療

正しく理解しよう



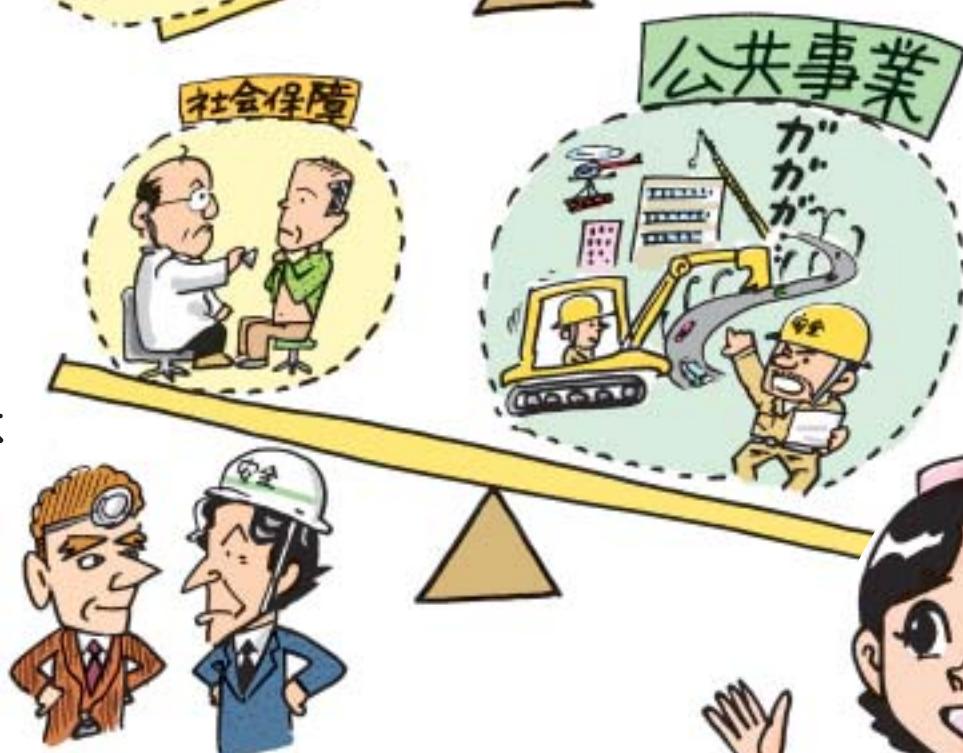
鹿児島県医師会  
鹿児島県医師国民健康保険組合

# 国際比較してみると お寒い日本の社会保障

先進諸国



日本



先進諸外国は公共投資より社会保障に予算を回しています。「社会保障は国の安全保障」という常識をきちんと守っているのです。公共投資に比べ医療・介護関連事業の方が雇用効果・経済効果も高いことが分かっています。

# 医療費の違い 手術料はアメリカの6分の1



ニューヨークで盲腸（虫垂炎）の手術を受けると、1日の入院で243万円かかります。医療には人手がかかるのですが、日本では1週間入院して37万8千円と格段に安いのです。しかも、国民のほとんどが医療保険に加入しているため、患者さんの負担は37万8千円の3割以下となります。アメリカでは入院費が高いため、近くのホテルから通院する人が多いそうです。日本では年間1人平均21回受診しているが、アメリカでは5回程度。医療費が高いから受診を控えているのです。

# 医師の技術料 低い医療費で多くの患者を診る



1回6万2千円～8万9千円

1回7千円程度

技術料が安いため、日本の医師は多くの患者さんを診ています。「命は地球より重い」といわれますが、医師の技術料はアメリカの5分の1程度です。看護師を含め、日本の医療従事者は疲れ切っています。

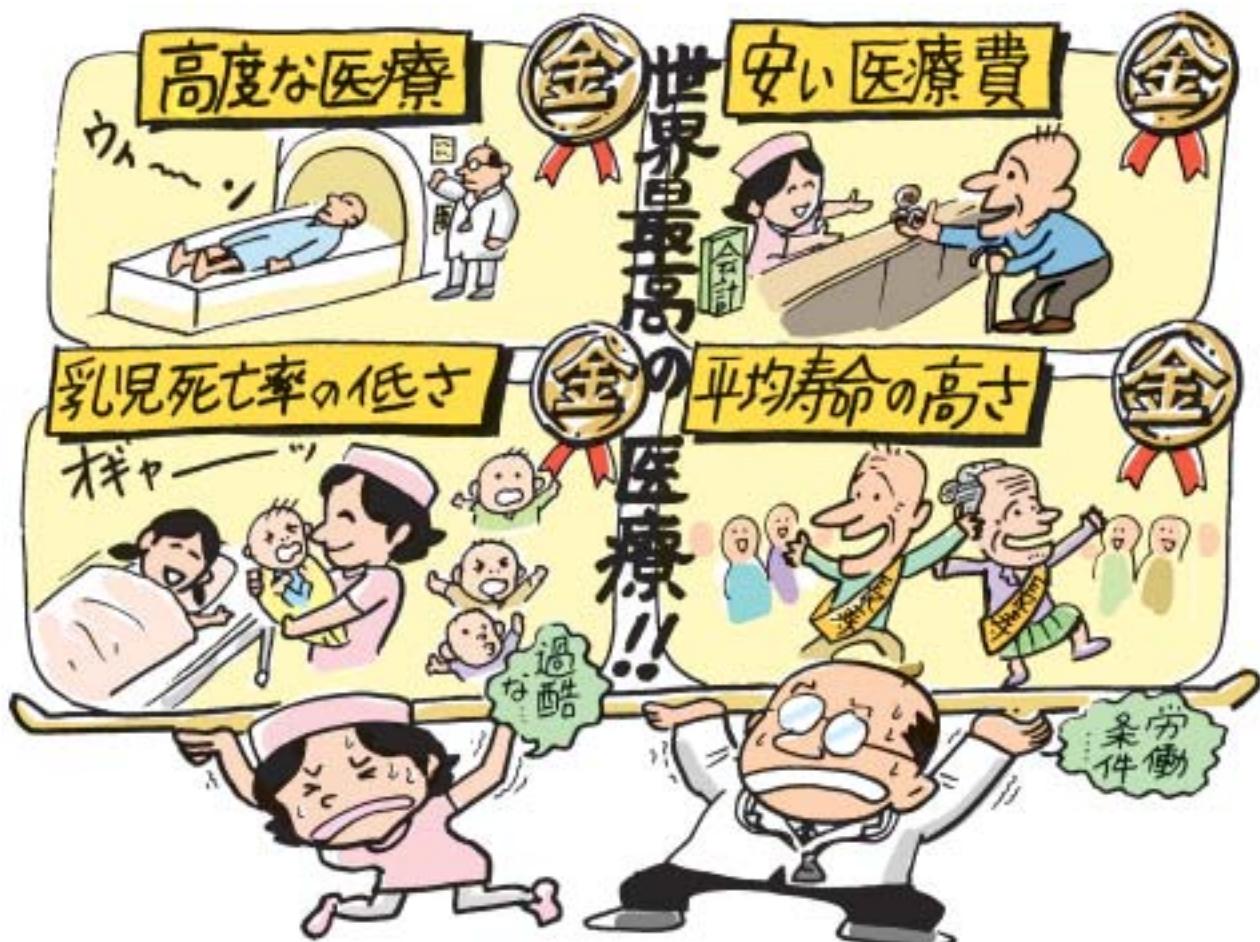
日米の技術料の比較(円)

	日本	米国	日／米
初診料	2110	9560*	0.2
再診料	620	4410*	0.1
検尿	250	820	0.3
総コレステロール	320	1630	0.2
心電図	1500	3570	0.4
胸部レントゲン	1440	5300	0.3
冠動脈造影	12000	76500	0.2
PTCA	155000	255000	0.6
心エコー	8000	33350	0.2

1ドル=102 \*ドクターフィーのみ



# 日本の医療の良さ 世界一の健康を築く



医療機関を自由に受診できる利便さ、高度な医療が安く受けられること、平均寿命の高さおよび乳幼児死亡率の低さから日本の医療は世界保健機関から世界ナンバーワンの評価をうけています。いつでもどこでも誰でも平等に診療を受けられる国民皆保険制度と安い技術料によって支えられているのです。世界一の医療を先進国で最も安い値段で受けられる事実は、国民にはあまり知られていません。



# アメリカの医療 世界37位



世界保健機関はアメリカの医療を世界37位とランクづけしています。医療費が高い（日本の2倍）、保険に入っていない人が4000万人というアメリカ。民間保険会社が医療機関と治療を牛耳っているアメリカ。しかし、政府は株式会社の導入などアメリカ式の医療を導入しようと考えています。

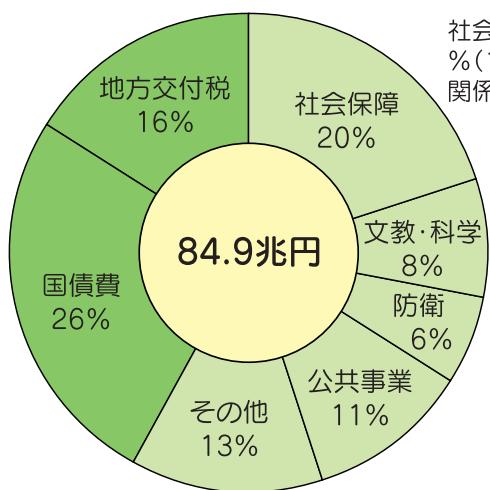
経済優先の論理が社会保障の崩壊を招くのは火を見るより明らかです。

# 安全・安心の医療 コスト負担を考えよう

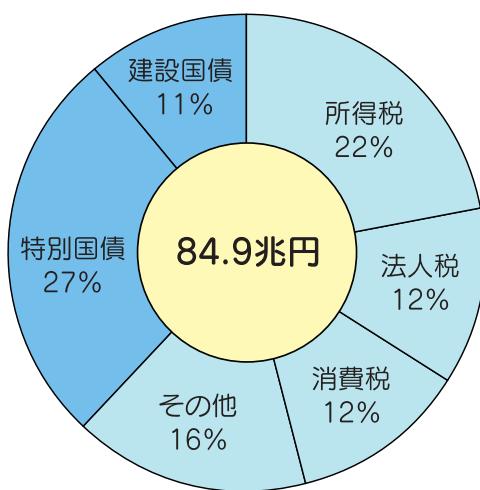


安全な医療を確保するためには、ある程度の費用がかかります。医療にかかる国・保険者・個人それぞれの負担の割合を真剣に考えて議論する必要があります。

平成13年度国家予算(歳出)



平成13年度国家予算(歳入)



# 医療費の負担は誰が？

## 日本は福祉小国



国家予算をみると、日本の社会保障は20%、うち6割が医療費です。アメリカの福祉・医療予算は国家予算の52%を占めています。高額医療で知られるアメリカでさえ、政府がこれだけの予算を回しているのです。日本の医療政策は間違っているといえます。

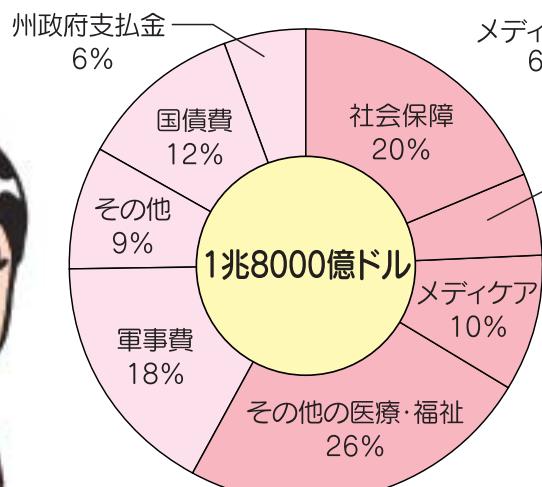


国は長引く不況や財政難を理由に国民の負担分を増やすともぐろんでいます。経済優先政策により弱者を切り捨てようとしているのです。

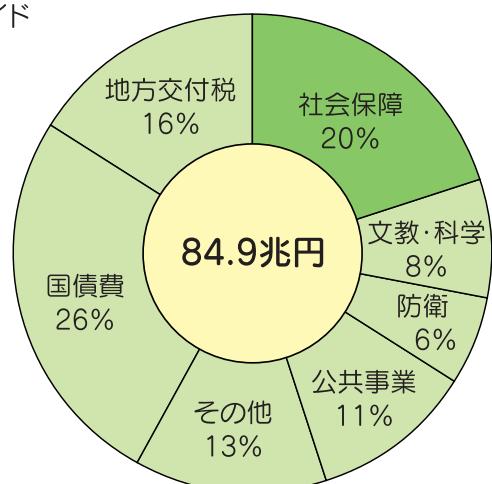
# 国民に負担強いいる政策



米国の支出



日本の支出



医療費は国と保険者と患者本人の負担で成り立っています。問題はそれぞれの負担の割合です。こここのところをチェックしていくと、日本では患者負担が増加カーブをたどり、これからも増えていきそうな気配です。にもかかわらず国の政策は「自分の健康は自己責任」として医療費負担を国民に押しつけています。

# 混合診療 全面解禁はせず



政府は混合診療の全面解禁導入を見送り、現在の「特定療養費制度」を拡充することで例外的に認めることになりました。お金持ちもそうでない人も平等に公平に診療が受けられるという医師会などの主張が原則として受け入れられたのです。



もし病院が採算の合わない部門を切り離して儲けだけを追求すれば、採算性の悪い診療部門（救急医療、へき地医療、小児医療など）は切り捨てられることになります。

# どうなる日本の医療 国民みんなで考えよう



多くの国民が病院で生まれ、病院で死んでいきます。その大切な医療福祉が今危機に瀕しています。国民が日本の医療の現状を知り、そのあり方を議論しなければなりません。また、政府が国民の健康と生命を軽視するならば、行動を起こすべき時期に来ているのです。



# 医師会の考え方 国民の健康と生活を守る



医療の現場に身を置く医師たちは、国民の健康を守るために一生懸命がんばっています。サラリーマンの医療費自己負担分がアップしたとき、医師会は「患者負担増阻止」の運動を展開しました。「医療が企業のような儲け主義であってはならない」と株式会社参入阻止を呼びかけ、さらに混合診療の全面解禁をストップさせました。鹿児島県医師会は、県民とともに医療のあり方を考える「すこやか医療タウントーク」を開催したり、「医療モニター会議」で各界各層の声を聞くなど、県民の願いを医療に反映させようと努力を重ねています。「患者さんの声ダイヤルイン」の直通電話（099-285-4114）を設置し、日常的に県民の声に耳を傾け、行政と医療現場にフィードバックしています。

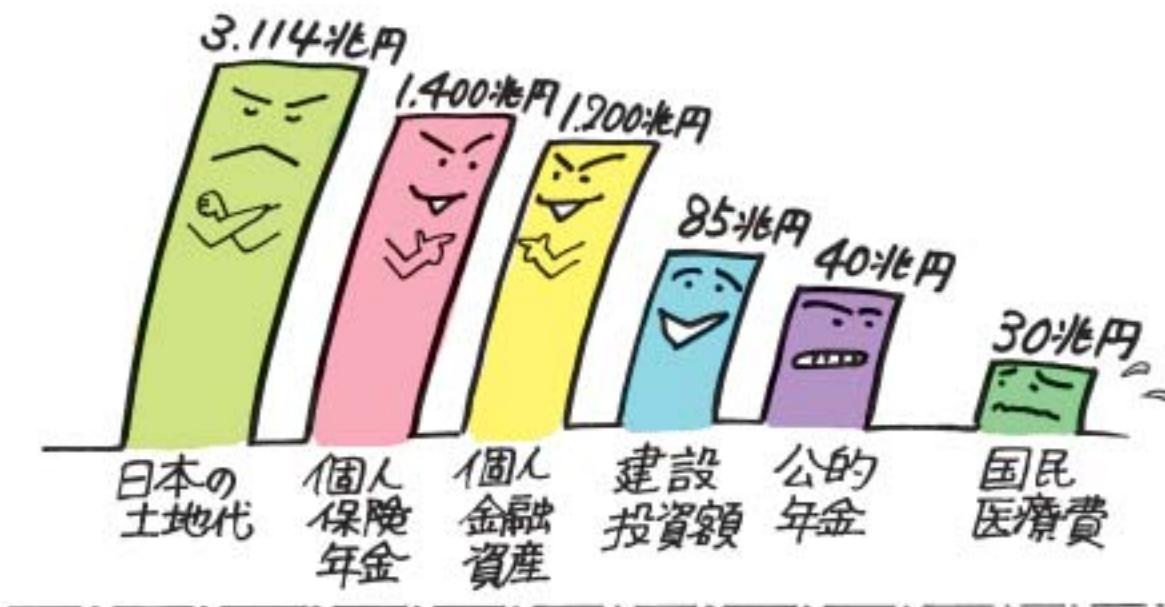


# だから国民皆保険制度が必要 「命と健康」は平等だ



わが国の医療保険制度の特徴は、すべての国民が公的保険に加入していることです。いつでも・だれでも・どこでも保険証を使って受診できるフリーアクセス方式。費用は個人負担3割で、残りは保険組合などから医師に支払われる現物給付方式です。この国民皆保険制度により人々の健康がしっかりと守られています。もし混合診療が導入されると、医療の安全が守れなくなります。

# 国民医療費は高いか？ 命の値段はパチンコ産業と同額



わが国の国民医療費は約30兆円。年金や建設投資に比べ低い水準で、パチンコ産業とほぼ同じ規模です。この程度に過ぎない医療費を政府はなぜ削ろうとしているのでしょうか。これでは国民の健康が損なわれます。「命と健康」が守れないのです。

# 世界一の医療を守るには 国民的議論が必要



医療は「国民が健康で文化的な生活を営む権利」（憲法25条）を支える社会基盤です。国は公共建設事業に力を入れていますが、医療にこそ投資すべきです。医療を経済原理で考えるのは間違います。国民の健康があって、国民の幸せがあり、国の経済を支えているのですから、一人一人が日本の医療の現状を知り、そのあり方を議論し、世界一の医療を守っていけるよう願っています。



混合診療や、医療の株式会社参入は国民の負担が増えるばかりで、人のいのちと健康を守る大切な医療の質が落ちていきます。

今こそ医療をよくするために行動を起こすべきです。

加齢とともに誰でも病気になりがちで、医療の現実に直面します。そのときになつてから後悔しないように、医療を身近な問題として真剣に考え、行動しましょ。

医師会は、国民の一人一人が日本の医療の現状を知り、望ましいあり方を議論し、安全で安心・満足の医療が受けられる社会にしようと努力しています。

鹿児島県医師会は、県民の苦情や要望、意見などを受ける直通電話「患者さんの声ダイヤルイン」を設置しています。気軽に声をかけてください。

※鈴木厚氏（川崎市立川崎病院地域医療部長）の論文「日本の医療を正しく理解してもらうために」を参考に、同氏の許可を得て編集・制作しました。

## 「絵で見る日本の医療 正しく理解しよう」

平成17年3月1日発行

発行者 鹿児島県医師会

鹿児島県医師国民健康保険組合

〒890-0053鹿児島市中央町8番地1

米 盛 學

<http://www.kagoshima.med.or.jp>

T E L 0 9 9 - 2 5 4 - 8 1 2 1

F A X 0 9 9 - 2 5 4 - 8 1 2 9

イラスト 久保公以智

印 刷 南日本新聞開発センター